

自然科学展示室の紹介

1. 概要

展示室では、五色台および香川県内における地学や生物に関する標本、人文に関する資料等を展示しています。2025年より、「探究の過程」を意識した展示方法に変更しました。これによって中学生から一般利用者まで幅広い年代が香川県の特徴について興味をもって学習することができるようになっています。

- ・展示物品目 約600点
- ・展示物点数 約2000点（豊島弘昆虫コレクションを除く）
- ・見学適正人数 35人程度まで
- ・見学所要時間 2時間

2. 展示について

【地学領域】

「日本で1番美しい場所」はどのようにできたの？

明治時代に瀬戸内海沿岸地域を訪れたシーボルトは、岡山県から見た香川県の景色に大いに感動しました。

足元の砂、瀬戸に浮かぶいろんな形の島々、平地の中の小山、奥にそびえる讃岐山脈、さらに奥には四国山地。これらを見たシーボルトは瀬戸内海を「日本で1番美しい場所」と表現しました。昭和9年、瀬戸内海周辺地域は、日本で初めての国立公園に指定され、香川県と瀬戸内海がつくりだした景観は、現在でも多くの人々を感動させています。このような特徴的な地形がどのようにできたのか、岩石や化石を見て考えてみましょう。



写真 岡山県から見た瀬戸内海と香川県

【生物領域】

香川県にはどのような生きものが暮らしているのだろう？

特徴的な地形によって、香川県は「瀬戸内海式気候」という環境にあり、瀬戸内海式気候に適応した生物が生息しています。平野部に点在する小山は、古くから里山として人々の生活には欠かせない場所でした。里山では、人間の活動の影響を受けた生物が生息しています。香川県を「島しょ部」「平野部」「五色台などの小山」「讃岐山脈」の4つのエリアに分け、それぞれの環境でどのような生物が生息しているかをはく製や標本を用いて展示しています。



図 香川県の生物

【人文領域】

昔の人々はどんな生活をしていただろう？

日本が大陸と分かれた後、氷期と間氷期を繰り返すことによって、海水面が上昇と下降を繰り返しました。最終氷期が終わったおよそ8000年前、いまの瀬戸内海ができました。瀬戸内海の海底からは右のような化石や石器が見つかります。これらは昔の人々の生活のようすを私たちに教えてくれます。県内で出土した石器や土器などを展示しています。



写真 サヌカイト石器や生物の化石
これらをよく観察すると、当時のようすが見えてくる